



ZENFUREN

2014年10月3・4日

号外

全国国立大学附属学校連盟
全国国立大学附属学校 PTA 連合会
〒105-0001 港区虎ノ門 1-2-29
虎ノ門産業ビル 8F
TEL : 03-3591-2091
FAX : 03-3591-2092

全附P連PTA研修会 第5回全国大会

女性会

「宇宙、人、夢をつなぐ」 宇宙飛行士 山崎直子氏

感じる心を育てる、それが道（未知）になり夢につながる



宇宙といえば、『宇宙兄弟』原作・小山宙哉。主人公が私の子どもと同じ男の子兄弟ということもありますが、その面白さは、「夢」を追いかけて、決して諦めることなく果敢に挑戦する主人公のひたむきさ（それに弱さ）と、彼らと関わる様々な人たちとの出会いです。宇宙という言葉にそのようなことを思い浮かべていたのですが、山崎直子さんの宇宙飛行士になるまでの講演は、女性の目線で感じたことや子育てのヒント、子どもの未来に向けてのアドバイスなど、とても興味深く、新しい気づきを得られる時間でした。

山崎さんが宇宙飛行士という難関の職業につけたことは、才能はもちろんおありだったと思いますが、その道はすでに幼い頃からつながっていることを教えてくださいました。その中で印象深かったエピソードは、北海道で幼少期を過ごした時、たまたま望遠鏡で見た星に「すごいな」と感じられたことです。それは他の子どもとは違う山崎さん“だけの”「すごい」との出会いでした。また、近所のラーメン屋さんでインド人の女性から声をかけられるのですが、彼女がニコッと笑ってこう言ったそうです。「世界は広いのよ、あなたも頑張ってるね」。五感に記憶に刻まれる。山崎さんにとって、望遠鏡からのぞいた星空や一人の女性

が話しかけてくれた一言は、そのときは想像すらしていなかった宇宙飛行士への道につながっているとのことでした。

10歳から12歳頃迄は、体や心と同様に脳自体も進化します。刺激を与えると回路が増えるので、無駄と思えることでもやってみることが良いそうです。習い事で一番続いたお習字は、国際的な事業に関わる宇宙飛行士の試験において、日本の伝統・文化を身につけていることのアピールに一役買いました。振り返れば「何ひとつ無駄ではなかった」という山崎さんのお言葉は、好きも嫌いも、得意も不得意も、成功も失敗も、経験することが道を作り、未来を想像させてくれる大切な時間になると受け止めました。

山崎さんが大切にしていること。それは、「wonder（未知）ful」を感じる心です。人と同じことをしていても、一人ひとりが考えること、感じることは違います。表面的な出来映えにとらわれず、子どもたちは感性で、様々なことをスポンジのように吸収していることを親として理解し見守っていくことも必要だと思いました。将来のことは誰にもわからない。道は一つではなく、決まってもいない。でも、それはどこかで夢につながっている。子どもたちが学校生活や習い事、家族や友達との関わりの中で「すごいな」と感じることや、ずっと続けられているその何か小さな信号というかひっきりに対して、精一杯の応援やサポート、時には見守ることが親としての役目であり、子どもの夢への道につながることを改めて感じました。

最後になりますが、このような貴重な機会をいただきましたことに心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。



愛知教育大学附属幼稚園
PTA 会長 川部麻里 取材